

クリーンプラザふじみ

自慢は
*市民との協働
*全国一厳しい
排ガス規制
*高効率発電…

ごみかん理事
井上真紀子



東京都の真ん中あたりに位置する三鷹市と調布市は都心からも近く、緑豊かな人気のベッドタウン。この2市が共同で建設したごみ処理施設「クリーンプラザふじみ」（調布市深大寺東町）が2013年4月に稼動を開始して、この春で1年が経ちました。

高さ100mの太い煙突は、周りに高い建物がないのでかなり目立ちます。私は隣の小金井市住民なので、建設中のクリーンプラザふじみの前を通るたびに、煙突がだんだん高くなっていくのを見ていました。

市民参加で 事業推進

ご存知の方も多いかと思いますが、我が小金井市は長くごみ問題で揺れています。近隣2市（府中市・調布市）と共に運営していた二枚橋ごみ焼却場が老朽化によって閉鎖した2007年以降、多摩地域の他市に可燃ごみの処理をお願いしています。

そして、市民にとっては寝耳に水のカタチで「日野市・国分寺市・小金井市の3市共同の可燃ごみ焼却施設を日野市のクリーンセンターに建設する」という話が出てきたのが2012年11月。新施設の稼動予定は2019年とされていますが、その後、日野市の建設予定地の地元では激しい反対運動も起きています。

2019年…あとたった5年です。クリーンセンターふじみの建設までの経緯を思うと、5年で何ができるのか、暗澹たる気持ちになるのです。というのも…2012年秋開催のごみかんの市民ごみ大学セミナー『規模縮小が進むごみ焼却施設』に、稼動を数ヵ月後に控えたクリーンプラザふじみ（当時の名称はふじみ衛生組合新ごみ処理施設）準備室長の萩原正樹さんに来ていただき、主に「市民参加によってどのように事業が推進されてきたか」を詳しく伺っていたからです。

三鷹市と調布市による「覚書」が交わされたのが1999年、そして稼動は13年後です！その間に両市の市民を交えた検討委員会（のちに市民検討会）や地元協議会が大きな役割を果たしています。気の遠くなるような回数の会議、勉強会、見学会、シンポジウム、アンケート、説明会などが丁寧にこなされていました。

市民の意見、 約束は…

そんなお話を聞いていたので、市民が決めたあれこれは実現したのだろうか、約束は守られているのだろうか…という思いで、今年3月中旬、クリーンプラザふじみを見学をさせていただきました。

三鷹市18万人+調布市22万人の40万人分の可燃ごみを処理するこの施設の規模は、144t/日×2炉の計288t/日。77,300t/年の予測で設計したということですが、実際には昨年は約70,000t/年で、1炉運転の日が多いそうです。

市民のごみ減量努力がうかがわれますが、説明によれば、昨年4月から事業系指定収集袋による廃棄物処理手数料が安くなったので、今後事業系ごみが増えるかもしれない、とのことでした。

また、基本計画ではガス化溶融炉が考えられていましたが、これも紆余曲折があった末に市民の意見が通ってストーカ炉に変更されました。

二重扉をつけたブラットホームは入り口と出口を同時に開けないことで、風が吹き抜けて臭気が漏れるのを防いでいる。見学の日も、さかんにパッカー車が入り出していましたが、臭いはいっさいありませんでした。

中央制御室では24時間、4人が7時間交代で勤務しています。全国一厳しく自主規制した排ガス規制…環境モニタリング(煙突で測定している排ガス濃度)はふじみ衛生組合のサイトでリアルタイムで公開されていて、誰でも見るができます。



**運営費の
半分以上を
売電で!**

私が特に気になっていたのは、クリーンプラザふじみの売りである高効率(21%)のごみ発電です。ボイラーと蒸気タービン発電機を設置して発電し、年間約44,300,000 kWh、一般家庭約12,300世帯分が消費する電力を発電します。この電気は工場内で使われ、余った分はPPS(特定新規電気事業者)のオリックスへ売電しています。今年度の売電価格は18.84円/kWh。

施設の運営費用の6億円/年のうち2.5億円を税金で、残り3.5億円を売電による収入でまかなっているそうです。運転費用の半分以上を工場自身が稼ぎ出すなんて…単純に考えればすばらしいことですが…。両市とも有料化されていて(三鷹市は2009年、調布市は2004年に有料化)、市民のごみ減量意識の高まりと共にさらに分別が進むと、可燃ごみから紙やプラスチックといった高カロリーのごみが減り、低カロリーの生ごみ为中心となります。また、新施設ができる前は茨城のひたちなか市の民間施設で焼却処理していた「容器包装プラ以外のプラスチック」を、稼働後はここで燃やしていますが、これも売却してマテリアルリサイクルといった対策がとられれば減少していく可能性があります。

「ごみが少なくなって売電収入が減ってしまったら、困るのでは?」と質問をすると、「住民のみなさんから『ここでは燃やすごみは減らしてほしい、プラは燃やさないでほしい』』ということで合意を得ているのです。発電量を上げるために他からごみを持って来たり、プラを燃やすことはしません」ときっぱり応じてくれたので、ひと安心しましたが…。

「ごみを減らす⇒発電量が減る⇒運営費の市民負担が増える」というジレンマ。これから先どうなっていくのでしょうか。ただ、こうした問題を抱えながらも周辺住民の方たちとのトラブルもほとんどなく1年を終えたとのことで、やはり長い時間とエネルギーを使った市民との協働の成果は充分にあがっていると感じました。

キャラクターの「三調めのエントツくん」も定着してきたようです。少し前までは焼却施設の煙突なんて近隣の嫌われものだったのに、キャラクターになる日が来るなんて…。時代の流れを感じます。

多摩地域にはほかにも建て替え中や、建て替え間近の清掃工場があるよネ。
隣に市役所や市民体育施設がある【武蔵野市】の清掃工場が、今、建て替え中。解体された旧工場(武蔵野クリーンセンター)ができたのが30年前。この工場を建てる時、どこに建てるかで10年以上もすったもんだがあって、その結果ようやく市役所の隣に決まったという歴史があるんです。特筆すべきは、その当時の記録を清掃工場内の展示室で見ることができ「クリーンセンターの歩み」として見学者に説明していること! こういうことが大事ですよネ。負の部分も忘れてはいけないと思う。
ごみを極力減らして規模を縮小して建て替えるのが、今は当たり前。ひと昔前は、右肩上がりのごみ量増加の予測をして、さらに予備炉まで作って建設していたけれど、もうそんな時代ではないから、武蔵野市は新工場は炉を3つから2つに減らしたの。それに建て替えのためにやむなく伐採した敷地内の樹木を使って、市民団体が親子木工教室を開催したり、この木で椅子を作ったりして…。(市の公共施設に設置予定) こんなところにもハートが感じられますね!
また建て替えが近いのが【日野市】の清掃工場で、国分寺市と小金井市が加わる広域化の計画でいろいろと話題になっているけど…。日野市はもちろん、小金井も国分寺も全国ベスト10に入る3R先進自治体だし、3市でタッグを組んで切磋琢磨したら、全国一のごみ減量最強エリアになること間違いなし!
「騒動」だけでなく、そういう意味でも私はかなり注目してます(^^)
《江川美穂子》